

急速に普及し始めた企業モバイルサーバー技術力で牽引する

ビービーシステムが9月にリリースする「ExLook Enterprise Server 2003 Database Edition」はモバイルシステムのプラットフォームを指向する製品。企業のモバイル導入が普及の勢いをみせているなか、この製品を軸とした新事業戦略を黒澤敏彦社長に尋ねた。



ビービーシステムは、メッセージングサーバーのExchangeに携帯電話でアクセスできる「iLook/ExLook」を他社に先駆けて開発した会社として知られています。今月、その最新版である「ExLook Enterprise Server 2003 Database Edition(以下、DB Edition)」がリリースされました。従来の製品に比べて、何が変わったのでしょうか。

黒澤 当社が1999年にリリースした、iモード対応の「iLook」や、翌年発売したiモード以外のブラウザフォンサービスにも対応する「ExLook」は、Exchange Serverのメールやスケジューラーに携帯電話のブラウザでアクセスできるようにしたものです。

今回の「DB Edition」は多くのお客様のニーズに対応し、操作性を向上させた他、企業の情報システム構築に広く用いられているマイクロソフトのSQL Serverに格納されているデータベースやExchange上のパブリックフォルダの

データを参照することができます。また、SQL Serverを導入されていないユーザー様のために、テキストファイルの参照機能も準備しています。ユーザーがカスタマイズを施すことで、携帯電話からさまざまな業務データを利用できるわけです。

既存のマイクロソフトの製品を使って多くのパッケージソフトがリリースされています。「DB Edition」をこれらと連携させることで、モバイルシステムの標準プラットフォームといえる存在に育てていきたいと考えているのです。

どのような形で販売されるのですか。

黒澤 まず、企業に普及している業務パッケージソフトをExLookでサポートし、そのソフトを提供しているメーカーと協力して販売していくことを考えています。また現在、携帯電話事業者が、法人顧客の開拓のため、モバイルソリューションの展開に力を入れています。ぜひ、これらの事業者と連携していきたいと思えます。携帯電話の販売代理店にとっても、有力な商材になると考え、販売の仕組み作りを進めているところでは。

サーバー構築技術に定評

ExLookのバージョンアップは2年ぶりです。これまでに、ニューExLookをリリースできなかった理由は何かありますか。

黒澤 実をいうと、ここ数年、主力の受託開発事業が急速に伸びて、パッケージソフトの開発にリソースが回せなくなっていたのです。

その多くは、マイクロソフト製品のマイグレーションです。当社はマイクロソフトの業務ソリューション製品のインフラ構築に、高い技術を持つ会社として評価いただいています。相当数の大手SI会社から、受注した案件のサーバーの構築を当社に任せただけになりました。

特に、4年程前からは、マイクロソフトがWindowsNTのサポート終了をアナウンスしたことを受け、OSをNTからWindows2003に、メッセージングサーバーをExchange5.5からExchange2003へマイグレーションする動きが広がりました。

次いで、これらの新しいプラットフォームに対応して、効率的なユーザー管理を実現するActive Directory(AD)を構築する企業も増えてきました。当社では、ADのコンサルティングから構築・運用まで体制を整えており、すでに100を超える案件を手がけています。ADにこれだけの実績を持つ会社は、恐らく他にないと思えます。

ExLookの売上げが、全体の25%程度を占めていた時期もあるのですが、現在は数%程度になっています。その間、細かい点でExLookに機能を付加してはいましたが、10月からは、改めて「DB Edition」に力を入れていきますので、この比率も売上げの数字もかなり上がるのではないかと期待しています。

御社の技術が高い評価を得ている要因は、どこにあるのでしょうか。

黒澤 技術を蓄積する上で、大きな役割を果たしたのが、ExLookなどのパッケージソフトを最新の技術を使い開発することに、積極的な取り組みをしてきたことです。

最先端の技術を使ったプロジェクトは通常は大手の企業が受注しますが

ら、当社のような規模の小さな会社が仕事として取り組むチャンスは、まずありません。そこで、自らその技術を使ったパッケージソフトを開発することで、技術を習得しようとしたわけです。

もう一つ、困難な案件に正面から取り組みむことで、この分野での技術やノウハウを蓄積してきたことがあると思います。私は社内で、常々「お客様の要望にはノーというな」といっています。ノーという言葉は成長のチャンスをつぶすものと考えています。

私自身、大手メーカ系のSI会社の方をはじめ、多くの方からチャンスとご支援をいただいてまいりました。今を思えば、技術的に困難な仕事や、赤字覚悟での仕事も最後まで責任をもってやりぬいたことなど、数多くの経験を積み重ねたことで、その都度少しづつですが会社も私も成長してきたと思います。困難だと思ってもすぐ否定するのではなく、やってみよう、やりぬくぞという気持ちをもつことが成長を促すものだと思っています。

OMAとは補完関係

マイクロソフトが昨年、ExLookと同様に、携帯電話からExchange ServerにアクセスできるOMA(Outlook Mobile Access)というモジュールをExchange Server 2003に標準添付するようになりました。ExLookとは競合になると思いますが6月にOMAの補完ツールの提供、構築サービスの提供を開始されています。狙いはどこにあるのですか。

黒澤 マイクロソフトも本社主導で、世界市場を念頭に独自のモバイル戦略を進められており、OMAはその一環として開発されたものです。ExLookに比べOMAは、機能は限定されていますが、Exchangeに標準で付いてくるものですから、まず、これを使って

モバイルに対応しようと考えられる企業が増えています。

そこで、OMAを補完し、より使いやすくするツールを提供し、導入のコンサルティングや構築などのサービスを提供することで、積極的にこのニーズに応えていこう考えたのです。

OMAをサポートすることでExLookの販促にもつながるとみえています。

人材確保でMKIと提携

今後、どのような事業展開をお考えでしょうか。

黒澤 近い将来、社員数500名、売上高で80億円程度の企業に成長させたいというプランを描いています。

このプランを実現するには、コンサルティングや私どもがシステムを直接お客様から受注する形のビジネスの比率を拡大していく必要があります。ExLookはその有力な切り口の1つになるはずで。

成長を図っていく上で大きなネックとなるのが、やはり人的なリソースです。積極的にさまざまな分野のソリューション系技術者を募集・育成しています。今日現在も技術者の募集を行っており、より多くの方が入社されることをお待ちしております。

先日発表しましたが、当社と同様にマイクロソフト環境の構築技術で評価の高い、三井情報開発(MKI)と提携し、共同でお客様のニーズに対応できる体制作りを進めています。加えて、ExLookなどのパッケージソフトは今後、当社が海外へ事業を拡大する上でも大きな武器になると思えます。

当社の社名は、宇宙が小さな固まりから爆発的に拡大して今の形になった「ビックバン」にちなんだものです。未知の分野に積極的にチャレンジすることで、新たなビジネスを創造していきたいと考えています。

お問い合わせ先

株式会社ビービーシステム

E-mail: exlook@bbsystem.co.jp URL: http://www.bbsystem.co.jp
東京本社 TEL: 03-5777-2801 FAX: 03-5777-2805
大阪本社 TEL: 06-6944-1077 FAX: 06-6944-0530